

## 散水試験によるコンクリートの表層品質評価におよぼす影響要因

西尾壮平

コンクリート構造物の表層品質を現場で手軽に評価するために開発した「散水試験」は、専門家による調査や研究だけでなく、鉄道事業者等において建設工事の発注や施工管理等を担当する部門で、担当者が自ら行う調査等にも活用されています。近年、散水試験の結果に季節変動が見られた事例や、散水量の異なる器具による検証事例などが報告されています。そこで、日射、温度、含水状態が実構造物の測定結果におよぼす影響、ならびに散水量の変動要因についての検証結果を整理しました。また、従来の散水試験では柱や壁のような鉛直面を測定対象としていましたが、水平面への適用を可能とする方法を検討しました。測定面の方向によらず適用可能な散水試験の評価指標として、散

水後の水分の存在による光沢の保持状況を目視で観察して取得できる「光沢保持時間」を考案し、光沢保持時間で表層品質評価が可能であることを実験で確認しました。

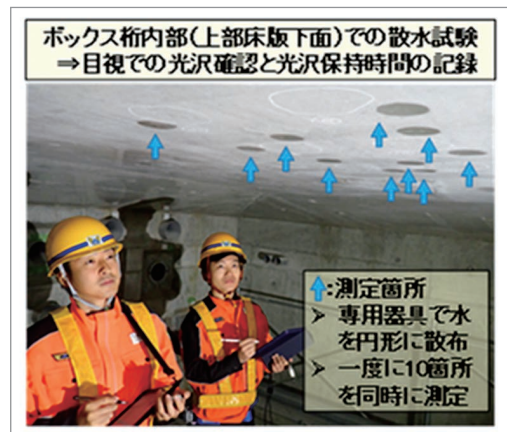


図 散水試験を水平面に適用している状況